平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0572609188		
法人名	有限会社　峰の山		
事業所名	グループホーム　みずこしの里		
所在地	秋田県大仙市土川字上雨堤135－1		
自己評価作成日	平成27年12月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成28年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームみずこしの里は、福祉・介護を通じ地域の皆様の健康と豊かな生活づくりに貢献し、愛情あふれる会社を目指します。継続した介護サービスを提供するとともに、介護職員の技術の向上と知識の習得に努めます。利用者が豊かな自然のもと、畑作り・花作りや手芸・家事の分担に取り組み、一人ひとりが穏やかに自分らしく生き、介護職員がそれを支えております。又、太陽光発電を設置し、環境にやさしい施設作りにも努めている。NPO法人環境あきた県民フォーラムによるあきた環境優良認定事業所でもあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は緑豊かな地にありながら、集落との距離も近く、ホームのある景色が地域の風景と重なり、地域に根差した事業所としての雰囲気が訪れたものに伝わってくる。職員は、ホームが他の家庭と同様に地域に受け入れられ、入居者が地域の一住民であることを実感しながら暮らせるよう、お互いに情報の交換をしながらチームとして意識的に関わっており、成果を上げている。また、統合失調症の方が多いため、認知症への対応に加え、基礎疾患の特性などにも配慮し、穏やかで豊かな暮らしが送れるよう心掛けている。昨年より、訪問看護の導入を行い、これまで以上に一人ひとりの病状への対応が細かく専門的にできるようになり、ケアの質の向上に役立っている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
64	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	専門技術・知識を高める為、常に研鑽を積み、職員の質の向上に努めている。 全員が理念を共有できるよう、月1回全体会議を実施している。個別ケアのカンファレンス後、理念に対する話し合いを設けるようにしている。	月に一度開催される全体会議には、法人代表も出席し理念の共有がなされている。また、日々の個別ケアカンファレンスにおいても一人ひとりの入居者の状況について情報交換を行ったのち、その後のケアについて、理念に照らしてより良いケアが提供されるよう話し合われ実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集会時は夜ということでなかなか参加出来ないが、日中の祭典には入居者様・職員共々参加させて頂き、地域住民様と交流させてもらっている。	事業者は、地域とのつながりを大切にしてきており、様々な活動に地域住民が関わってくれるようになっている。最近では地域の力を事業所の運営に活かすとともに、事業所の機能を地域に役立てるべく、認知症カフェの開催の呼びかけなども行っている。地域性もあり、まだ実効は上がっていないが、事業所の機能を地域に伝え続けていくことで認知症に関する地域の理解を深めていこうとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ホーム内行事を実施するにあたり、地域の住民を受け入れできるよう計画・声かけ等取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様及び家族様・介護保険事務所・自治会長・民生委員等の方々から参加して頂き、地域との交流を図るなど、サービスの質の向上につなげるよう取り組んでいる。運営推進会議での出席者からの意見を真摯に受け止め、サービスの向上に向け取り組んでいる。議事録を職員全員に回覧して内容を把握して頂いている。	会議では、参加者から様々な視点の意見や質問が出され、その内容は事業所の運営に反映されている。会議を通して、事業所の役割・運営の状況と共に、グループホーム事業そのものの持つ機能や、認知症の方々への支援の実際が出席者に理解されてきていることが、議事録より確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回は市町村担当者に出向き、情報収集している。	特別なことがなくても、定期的に担当者に相談できるようにしている。最近では介護度が下がったことにより、住み替えが必要になった入居者の件で、相談、協力を仰いだこともあった。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議・カンファレンス会議等、身体拘束における勉強会を実施している。	身体拘束に関する勉強会を実施し、理解を深めている。止むを得ない事情によりベッド柵を4本利用させていただく場合などには、家族より、同意書に加え電話等で状況を伝え、きちんと了解を得るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、いつでも見れるようにしている。 全体会議でも虐待と拘束の防止について話し合いを持ち、また運営推進会議でも議題として取り上げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各入居者様の状況について把握しており、必要な場合は活用できるよう支援している。開設者については研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の来訪の際、又は郵送の方法をとり、入居者様ご家族への説明同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見・要望をお聞きしたり、意見箱に入れてもらうようにしている。	意見箱は設置しているが、意見用紙が入れられていることはほとんどない。職員は家族の顔を覚えて、面会時に意見や要望を聴けるようにし、その内容をケアに反映できるようにしている。また、少しの変化でも、連絡するようにし、できるだけ今の状況を家族に伝えておくことで、要望・希望が言いやすくなるよう配慮している。	面会時や、少しの変化があったときなど、家族が入居者の状況を具体的にイメージしやすいよう伝えるとともに、家族からの意見や要望の聞き取りがケアに反映できるよう、会話の持ち方や記録の方法の工夫に継続して取り組まれることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体会議では、職員の発言・提案する時間を設けて意見交換している。	月一回の全体会議で意見交換がなされている。以前は職員からの意見が少なかったが、この頃では職員からの発言・提案もあり、現場の運営に反映されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月～金曜日まで午前8時より午後5時までほぼ勤務し、資格取得及び研修受講においては給料水準の引き上げ等実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修を受ける機会を確保し、内部にて報告をして、ケアが共有・向上するよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を行い、お互いのホーム内の活動を検討する機会をもっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接をし、本人の要望や希望を聞き、安心して生活出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様の要望等を聞いて、関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様との会話を重んじ、共に暮らす者同士の関係を築くように努力している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	少なくとも毎月初めに、お便りで近況を報告している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様一人ひとりの昔話に耳を傾け、大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を支援するように努めている。	長期利用の方の中には、様々な理由で馴染みの方の足が遠のいていることがある。また、入居者の病状などにより、馴染みの方と実際に会うことが必ずしも心地よい状況を生み出す支援とならない場合もある。そういったときには職員が一人ひとりの話を聴き、馴染みの人や場所を一緒に懐かしく想起し、穏やかな日常を送れるよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりが孤立しないように、職員が間に入ってみんなと過ごせるように配慮している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援の要望に対して相談対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや各個人のペースに合わせ、食事や入浴・散歩など意向に沿った支援を行い、本人の負担にならないような援助に心掛けている。	思いや意向を示すことができる入居者も多く、食事・入浴・行事などについてそれぞれの意向をできるだけ尊重し、ケアに反映させている。また、基礎疾患によっては安定した日常生活を送っていただくために、要望の中身やペースを援助者側で調整する必要もあり、本人にとって何が一番大切か考えながら支援している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報を収集し、今後のサービスの向上・把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察記録や1日の行動パターンを記録し、毎日の現状把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス・モニタリングを実施し、又、面会時にはご家族様の意向を反映させたケアプランの作成に努めている。	入居者ごとの担当職員が中心となって情報を収集し、カンファレンス・モニタリングの場面で他の職員からも意見を聞き、計画作成担当者に内容を集約している。計画作成にあたっては、必ず家族の意向を確認し反映させている。内容は、関わり方のポイントや注意・工夫点など、非常に具体的であり、実効性の高いものとなっている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕に申し送りを行い、情報を共有する。 モニタリングに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小・中学校の学習発表会や地域の文化祭などに出席し、楽しむように支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院への受診、かかりつけ歯科受付を定期的・本人の希望時、又は体調不良時に受診援助を的確に行っている。	紹介状にて協力病院を受診する方もいるが、統合失調症の方も多く、かかりつけ医の受診を援助している。定期的な受診以外にも、必要と思われた時には都度、受診ができるよう支援し、適切な医療を受けられるようにしている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週1回来て頂いている。個々の入居者様の体調の事など相談し、適切な支援をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療連携室と密に連携し情報交換や相談に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医院受診時には、医師からの意見やご家族様の意向を確認しつつ、ホーム側としての対応について職員とも意見交換し職員全員が同一方針の共有に努めている。	訪問看護が週一回入るようになり、入居者の心身の状況について、留意点や受診のタイミングなど、相談しながら進められるようになった。終末期や重度化した際には医師の判断で、事業所の現体制でできる間は支援したいと考えている。家族にも状態に応じて意向を確認し、事業所としての支援の体制についても話をしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防分署の協力を得て実施訓練等を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には地域住民の方にも参加して頂き、入居者様の避難の手助けの訓練と、訓練用火災消火器を用いた消火訓練にも参加頂いている。	地域住民の方々とも協力体制ができており、避難経路なども理解して頂いている。夜勤帯での災害対策は職員も繰り返し訓練して備えるようにしている。冬場の避難経路の確保のための避難口の雪寄せなども、職員が行って確保している。太陽光発電による蓄電、発電機もあり、飲料水や食料備蓄なども十分にある。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保ができるよう徹底している。入居者様への声かけに際しては、丁寧な言葉遣いと、プライバシーに配慮した声かけをしている。又、個人ファイルは事務所保管として、他の入居者様の目に触れないよう配慮している。	プライバシーの確保には、十分な配慮がなされており、入居者への声掛けも丁寧で穏やかになされている。個別な話はさりげなく部屋に誘って行い、他の方々の耳に入らないよう気を配っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行う時は、本人に聞いてから行うようにしている他、本人の希望のある場合、対応できるように努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人の希望に沿うように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入の要望はご家族と相談しながら対応している。 外出時は外出着に着替えできるよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の際には、職員・入居者様と共に行い、後片付けについても、本人のできる範囲内で行って頂けるよう援助・依頼している。	献立作りの段階から、入居者の希望を聞いて取り入れるなど、できることを活かし、一緒に行っている。片付けなどは入居者の中で、決まり事を作って行っている。職員は、新しい入居者が加わった際にはその方にも役割をつくってもらえるよう声掛けをしたり、アドバイスをしたりしながら見守り、支援している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎日記録して状態を早く把握できるよう支援している。個々に合った食事に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを見守り、眠る前は義歯洗浄剤を使い、汚れや臭いは生じないよう支援している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握と誘導を実施し、失禁時には他の入居者様に気付かれないように汚れた衣類の交換・見守りを援助している。	自発的にはトイレに向かわない方も居り、排泄のパターンや、その際の仕草などを把握し、声掛け誘導を行い支援している。また、誘導に乗りづらい方には声掛けの工夫をしたり、職員を変えて誘ってみるなど、様々な方法で自立できるよう支援している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、食物繊維の多い食品を取り入れるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午後からの入浴だが、本人の希望があれば午前の入浴・シャワーの利用が可能な体制を取っている。	基本的には、週2回、午後からの入浴であるが、希望があった際はこれに限らず、対応している。また、決まった日に入りたいという方も居り、パターンを崩さないよう支援している。浴室は十分な広さがあり、ゆっくりと入浴することができる。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意思を尊重し、休みたい時は居室で休めるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬や目薬は職員が管理し、副作用や用量など、医療関係者に相談しながら確認に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の支度・掃除等それぞれのできる範囲で行って頂くよう支援している。 嗜好品に対しては、売店やデパートで個々に買って頂いている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩同行や買い物、レクリエーション・ドライブ等出来る限り支援している。	日常的に散歩をしたり、家族のいない方には買い物援助をしたりしている。レンタカーを借りて、全員で小旅行を楽しむ機会もある。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	春と秋のバスハイキング時、お金を所持して頂き使ってもらっている。お金を持っていたいという方には持ってもらい、職員が管理している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、電話や手紙のやりとりをしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の廊下は広く、又、掘りごたつの和室・多目的ホールもあり、広い共用空間となっております。ホーム脇には畑を作っており、四季が感じられるようにもなっている。	広い窓からは、花壇や畑など外の景色が望めるリビング、広くゆったりとした雰囲気の掘りごたつがあり外光が気持ちよく降り注ぐ和室、ラジオ体操に入居者が自発的に集う広い廊下等々、共用空間は広く、入居者は一人ひとりが落ち着く場所で過ごすことができる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・多目的ホール・談話室・リビングルーム等、色々な場所で過ごせるよう工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室への私物の持ち込みには制限は無く、各個人が自由に利用できるようにしている。	居室には本人が持ち込みたいものを設えることができ、仏壇を置き毎日水を取り替えたり、花をあげたりする方もいる。暖房も一人ひとり感じ方が異なるため、本人の状態に応じて設置設定し、居心地よく過ごせるよう支援している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差を無くし、ひとりで行き来できるように工夫している。		